



# 全消協ニュース

全国消防職員協議会発行／編集責任者 山崎 均／東京都千代田区六番町1 自治労会館／☎ (03) 3263-0271  
ホームページアドレス／<http://www.jichiro.gr.jp/zensyokyo/index.html>

謹賀新年



新年明けましておめでとうござ  
います。全消協会長として二期目  
の新年を迎えました。

昨年は「ミートホープ」に始ま  
り、赤福、船場吉兆という老舗の  
食品偽装問題、「どうせ嘘つくな  
ら選挙運動」という横着すぎる自  
民党の執行部、「偽」になぞられ  
た情けない年となりました。一方  
で雪だるま以上に膨らむ国の「借  
金」「消えた年金」など、国民は  
納税と年金に不安を抱き政治不信  
を増幅させています。

国民はこの国に魅力を感じてい  
るのでしょうか。次世代を担う若  
者たちへ「美しい国」よりも「誇  
れる国」としてのメッセージをさ  
げたいと思います。

今、世界は若者に注目していま  
す。PSIにおいても若手育成が  
組織を活性化し、エネルギーを与  
えてくれることを方針に掲げてい  
ます。全消協も後継者育成はもち  
ろんのこと研究集会や労働講座で  
若手重点育成カリキュラムを起こ  
し中長期にわたる人材育成に取り  
組むべきだと考えています。

着実にやれることはすべて掘り  
起こし取り組んでいきます。雑駁  
でありますが年頭の挨拶とさせて  
いただきます。

迫 大助

## 休日勤務手当で質疑も

# 自治労が消防セミナー開く

10月25日、東京で自治労の消防セミナーが開催され、自治労の消防担当者や全消協の仲間120人が参加した。集会では、自治労と全消協の双方から消防職員の自主組織づくりの推進について問題提起が行われ、交流を深めた。

集会では、総務省消防庁の高尾和彦消防・救急課長が、今日の消防行政の課題と現状について講演を行った。質疑では、各地で表面化している年末年始における休日勤務手当の過払い問題について

質問が出された。高尾課長は「国として制度の適正な運用を行うよう、通知を発した。条例に根拠がない支出であれば返還していただくこととなる」「法的には不当利得となるので、受け取った職員に

は返還義務はある」と述べた。

### 夕張の現状の特別報告も

引き続き、夕張消防の平賀雅勝さんと千葉恭久さんが、厳しい中



●会場を埋める120人の参加者



●感動を与えた千葉さんの報告



●質問に答える高尾消防・救急課長

## 迫大助会長 in Korea PSI日韓労組交流に参加



●ソウル市中心部を埋め尽くす労働者大会の熱気。迫会長（中央）も気合のガッツポーズ。

PSI-JC（日本加盟組合協議会）は、11月10日から3日間、韓国労働者大会への参加と韓国のPSI加盟組合との交流のため韓国・ソウルを

訪問した。団長を務めたのは全消協の迫会長。権利獲得のため体を張って闘う韓国労働者から多くを学んだ。



●組織化の経験を交流

で地域の安心・安全のために奮闘している模様を報告した。千葉さんは夕張市が財政破綻に至り職場と家族をとりまく状況が苦しくなる過程をつぶさに語り、「自分も一度は退職を考えた。でもがんばってこられたのは、消防の仲間がいるからだ」と語り、参加者に強い感動を与えた。

自治労のセミナーに引き続き全消協の組織強化拡大対策委員会が開かれ、参加した対策委員が未組織消防の組織化の取り組みについて議論した。

会議では山崎均事務局長から新組織強化拡大計画について説明。ブロックをまたぐ場合の経費の扱いなどで質問が出された。

また全消協が作成した「コマールDVDをオルグ活動に使用したい」との意見が多く寄せられていたことから、これを会場で上映し、参加者で内容を検討した。対

策委員からは「協議会の活動は違法ではない等の内容を入れて欲しい」等の意見が出され、今後の検討課題とした。

消防行政の広域運営計画への対応についてはグループ討論を行い、「消防長会の案に消防長が難色を示し、意見がまとまらない」「多くの未組織職場では広域化への不安を抱えている」などの報告があった。まとめとして「都道府県からの情報が少ないとの意見が多いが、活動として開示を求めていくことが必要ではないか」等とした。

## 2008年度組織強化拡大対策会議 コマールDVDを検討



会場となった「横浜国際ホテル」2階「松竹の間」には、消防職員をめぐる状況に見識を深めるとともに、全国の仲間と交流を深めることを目的とし、日本全国から女性会員や未組織の方を含む47単協53名が参加した。

初日の講座は消防財政からの視点で広域化や無線のデジタル化などを考える講座「消防財政と消防の広域化」が行われた後、班単位での夕飯となった。一夜明け午前中は消防職員が適用を受ける労基法や地公法について、そしていま全国的に問題となっている年末年始における休日勤務手当てを取り上げた「賃金・労働条件」、昼食を挟み、惨事ストレスなどに対して協議会が担う役割を考えるメンタルヘルス対策や労働安全衛生法から職場の環境や衛生を考える「快適職場づくり」、魅力ある協議会活動の実践とオルガナイザーの必要性について考える「さらなる組織強化・拡大」の講

義が行われ、終了後の夕食懇親会は横浜ベイクロスターからシーバスに乗り込み山下公園で下船し、中華街の「天香楼」で懇親会が開かれた。最終日に自治労神奈川県本部から政策局長 内山幸子さんを招き「男女共同参画」について講義をいただき、最後に意見交換会を行い終了となった。

- 講座Ⅰ  
「消防財政と消防の広域化」
- 講座Ⅱ  
「賃金・労働条件」
- 講座Ⅲ  
「快適職場づくり」
- 講座Ⅳ  
「さらなる組織強化・拡大」
- 講座Ⅴ  
「男女共同参画」

## 「第36回労働講座」でオルガナイザーを養成 異国情緒漂う横浜で未来の消防を考える

12月10日から12日までの3日間、師走をむかえ街中ではクリスマスソングが楽しげに流れる横浜市において全消協第36回労働講座が開催された。

### 大分県・豊後高田消防職員協議会

## 「小さくてもキラリと光る消防職場」 めざして協議会を結成



(豊後高田市  
消防職員協議会)

今後、協議会活動を通じ、会員が一致団結し、至った経緯と意思を忘れることなく「小さくてもキラリと光る消防職場」をめざし住民サービスのさらなる充実に努めていきます。

皆様のご指導、ご鞭撻を賜りたいと思っておりますので、どうぞよろしく願います。

### いちやりばちょうで

2007年10月20日に大分県で9番目に誕生しました、豊後高田市消防職員協議会です。結成にあたり多大なご尽力をいただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

さて、わが豊後高田市は県の北東部に位置し、現在昭和の町等の観光をメインとして全国に発信しており、仏教文化の里としても知られ数々の歴史的遺跡が存在する人口約25,000人の町です。

2005年3月31日の1市(豊後高田)、2町(真玉、香々地)合併により、高田地域消防組合は単独消防「豊後高田市消防本部」となり、消防職員を取り巻く状況も大きく変わりました。その環境の変化のなかで、市職員と我々消

防職員との間に、相互理解し合っていない内容が存在することに気づきました。

また、消防組織内においても旧態依然とした体質が残る、新時代の消防体制を確立するために開放的な新しい知識を持つことの必要性を痛感致しました。

そんな折、市職労、県消協から消防行政に関する情報の交換・共有、研究の場を持つためにと協議会結成の勧めがありました。これを受け、職場において消防職員のおかれている現状についての説明や議論を行い、その結果、職員の融和、開かれた組織の設立をめざし消防職員協議会の必要性について研究をはじめ有志43人で結成に至りました。

# PSI-JCが男女平等セミナーを開催

## 全消協から長谷川さん、永島さんが参加



●参加型ワークショップで課題を洗い出す。

### 福田総理にPSI書記長が手紙

PSIは11月27日、日本の消防職員の団結権問題について手紙を送り、団結権付与のための措置を取るよう求めた。これは9月のPSI世界大会で全消協が、日本の消防職員の団結権の問題で決議案を提出し可決されたことを受けたものだ。

〒100-8968

東京都千代田区永田町1-6-1

内閣官房 内閣広報室

内閣総理大臣 (日本)

福田康夫閣下

ファイル参照番号: HE/NW/231.02.01.02 TUR Japan

担当者: チディ・キング (Chidi King)

2007年11月27日

総理大臣殿:

拝 啓

国際公務労連 (PSI) は、世界中の公共サービス部門で働く男女2000万人を代表する世界的な労働組合連合です。154カ国に651加盟組合を擁しています。PSIは独立機関で、他の労働部門の連合体及び、国際労働組合総連合 (ITUC) と協力体制をとっています。PSIは国際労働機関 (ILO) の中で公共部門のための非政府組織 (NGO) として公式に承認されており、ECOSOCに対しては相談役として、またUNCTADやWTOのようなその他の組織に対してはオブザーバーとしての役割を担っています。

私は、2007年9月24-28日にオーストリアのウィーンで開催されたPSI世界大会での討論をふまえて、お便りしています。同大会には世界中から1500人超の公共部門労働組合代表が参加しました。同大会では、日本の消防士と救急救命士の労働組合権の尊重に関する決議が採択されました。大会では、日本国政府がILO第87号条約 (1965年) を批准しているにもかかわらず、消防士と救急救命士に対して団結権を認めていないことに留意しました。

大会では、これまで10年にわたって、ストレスの多い労働条件のために、ある消防本部内で働く236名のうち7名が自殺した件に対して大きな関心をもって留意しました。労働組合が存在していたら、恐らくそのような状況は回避できたであろうし、労働者は自らの状況について上司に発言することができたであろうというのが、大会の見解です。

従って、私は貴政府に対して、ILO第87号条約に従って消防士および救急救命士に団結権を直ちに与えるために必要な対策を講じるよう強く要望いたします。

敬 具

ハンス・エンゲルベルト  
書記長

同封: 自治労 (日本)  
PSI東京事務所  
PSIアジア太平洋事務局  
ILO事務局長

セミナー第1日目の冒頭、PSI-JCの女性委員会議長の植本眞砂子自治労副委員長があいさつ。続いてPSIの活動紹介や9月にオーストリアのウィーンで開かれたPSI世界大会について、参加した各加盟組合の代表者が、大会の感想などの報告を行った。続いて、「組合リーダーとしてのメンタリティーの獲得」と題して、精神科医の水島広子さん (AJジャパン代表・元衆議院議員)

が講演。他者からの発言で気分を害するのは、その発言者や出来事に問題があるのではなく、それをとらえる「心の姿勢」に問題があるとし、その「心の姿勢」には「あたたかい心」と「怖れ」のどちらかしかなく、どちらを取るかは選択ができること、「怒っている人」とは「怖れている人」と見ることができるといったことなどを、グループ討論などを通して共有化した。



●長谷川幸さん (川崎市消協)

セミナー2日目の冒頭は、「雑誌からジェンダーを読む」として、身近な雑誌の記事や写真を材料に、ジェンダーの偏見が助長されているもの、ジェンダーに中立的なものを抜き出し、分析し、グループごとに発表するなど、問題の洗い出しを行った。続いてPSIの世界執行委員を



●永島加奈子さん (那覇市消協)

務める中島圭子自治労健康福祉局長から、「PSIジェンダー主流化政策について」と「女性と暴力に関する国連キャンペーン入門編」の二つの講演があり、女性の権利と男女平等の確立に向けた国際社会の取り組みについて学習した。

さらにDV (ドメスティック・バイオレンス) の防止に取り組んでいる全国センターネットの隠岐美智子さんから「女性への暴力被害の現状と被害者支援について」と題し、DVをとりまく現状について講演を受けた。

### 当面の日程

#### 全消協第37回研究集会

と き:  
2008年5月15日 (木)  
～5月16日 (金)

ところ:  
福井県福井市  
「フェニックスプラザ」